

化学的防除の実施状況（ベイトステーションの設置）について

1. 目的

ツマアカスズメバチの化学的防除の実施にあたっては、ベイト剤による防除効果の検証のほか、生け捕り型トラップによる散布法（成虫に直接薬剤を吹きかける手法）による防除効果の検証、その他モニタリング等により知見を集積してきたところである。

これらを踏まえて、令和3年度以降はより効率的に広く防除を展開することを目的として、一定の範囲に薬剤入りのベイトを設置したベイトステーション（餌場）でハチを誘引し、餌場からの薬剤の持ち帰り実証試験を行っている。

2. ベイトおよびベイトステーション（餌場）について

薬剤入りのベイト（エトキサゾール 200ppm カルピス水）を誘引物に用いて、林道沿いの樹木枝先等に誘引物を入れたポリ製広口瓶を吊り下げて餌場とした。餌場はハチが自由に入出入りして薬剤を巣に持ち帰ることができるように、ポリ製広口瓶の側面に直径 12 mm の穴を 4 か所開けた（写真 1 矢印部）。

誘引物は蒸発を防ぐためバック容器 70ml に入れ、容器蓋に開けた穴から出した吸水クロスで吸い上げたベイト（カルピス水）をハチが舐めるようにした。各ベイトステーションは 1 週間に 1 回点検して、適宜誘引物の補充を行った。



写真1 ベイトステーションと誘引されたツマアカスズメバチの様子

3. ベイトステーションの設置期間および範囲、個数

【対象地】 豊玉町廻～唐洲～水崎～貝口（半島部）

【設置】 2022年9月7日～9月9日 500個

【回収】 2022年12月7日～12月9日

R3年度に設置した生け捕りトラップ地点を踏襲して、豊玉町廻～唐洲～水崎～貝口の半島部にベイトステーションを設置した。

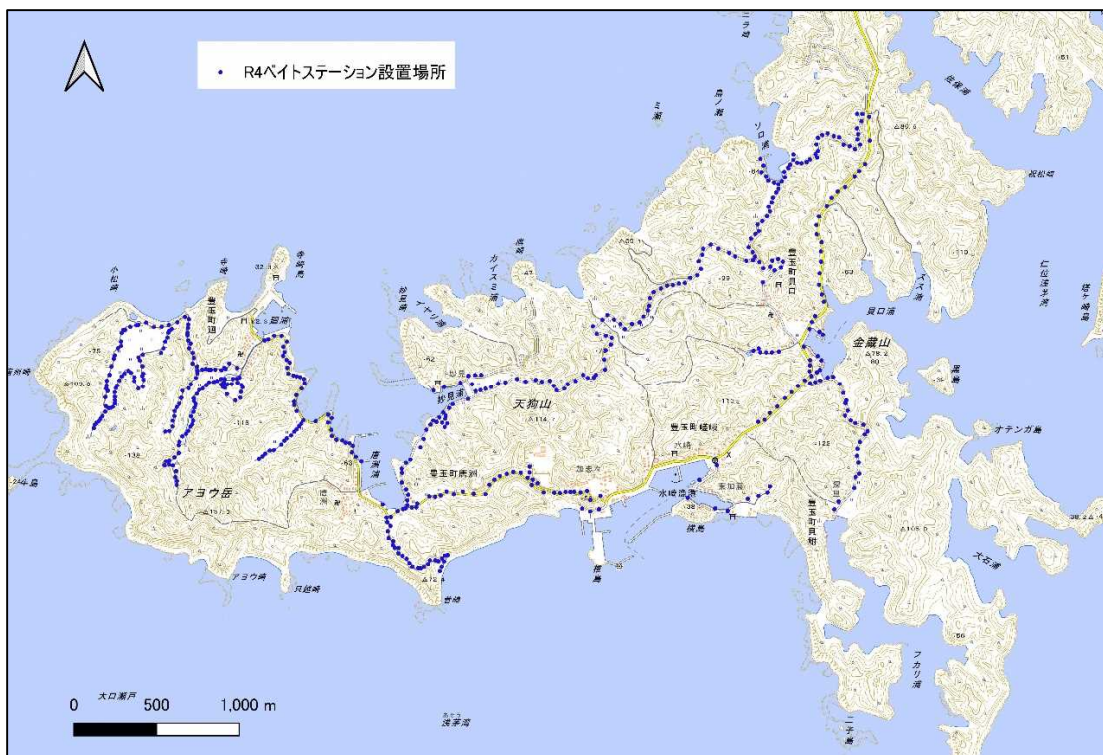


図1 ベイトステーション設置範囲

4. 実験対象エリア内におけるツマアカスズメバチ巢の駆除、回収

薬剤の効果を検証するために、実験対象エリア内において確認されたツマアカスズメバチ巣33個の内、一部を駆除回収した。サンプルとして確保した巣は冷凍して国立環境研究所へ送付して巣内容物の分析を依頼した。



図2 実験対象エリア内で確認したツマアカスズメバチ巣とベイトステーション位置図

R3年度の検証結果より、化学的防除の実施にあたっては巣から半径300m以内に20個以上のベイトステーション設置が効果的であるとされている。そこで、R4年度の化学的防除実施エリア内で確認されたツマアカスズメバチ巣について、半径300m以内のベイトステーション数をカウントした(表1)。

表1. 各巣からの半径300m以内のベイトステーション数

巣ID	ベイトステーション数	巣ID	ベイトステーション数	巣ID	ベイトステーション数	巣ID	ベイトステーション数
36	60	63	27	68	21	13	12
40	57	39	27	89	21	69	9
98	41	71	27	44	19	70	6
90	37	41	26	87	18		
37	37	96	26	64	17		
99	37	24	24	88	17		
67	31	42	23	65	16		
23	29	32	23	46	15		
72	28	47	23	62	14		
66	27	38	21	100	14		

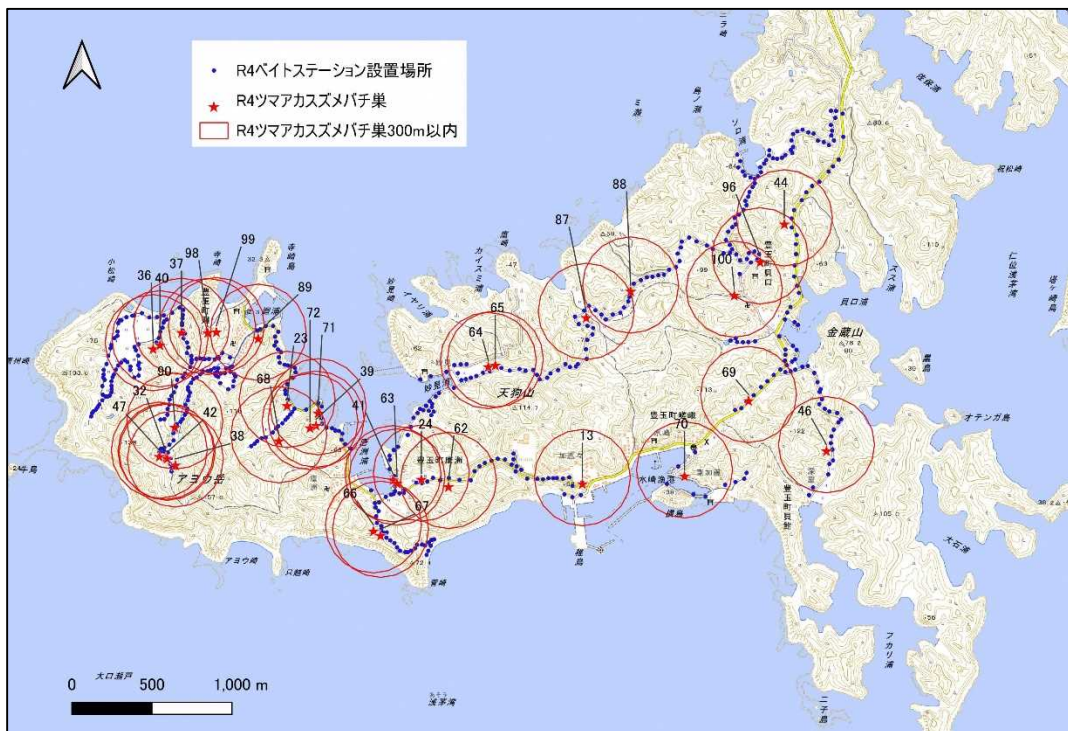


図3 各巣から半径300m以内のベイトステーション設置状況

5. 実験対象エリア外におけるツマアカスズメバチ巣の駆除、回収

薬剤の効果を検証するために、実験対象エリア外において確認されたツマアカスズメバチ巣を駆除回収した。サンプルとして確保した巣は冷凍して国立環境研究所へ送付して巣内容物の分析を依頼した。

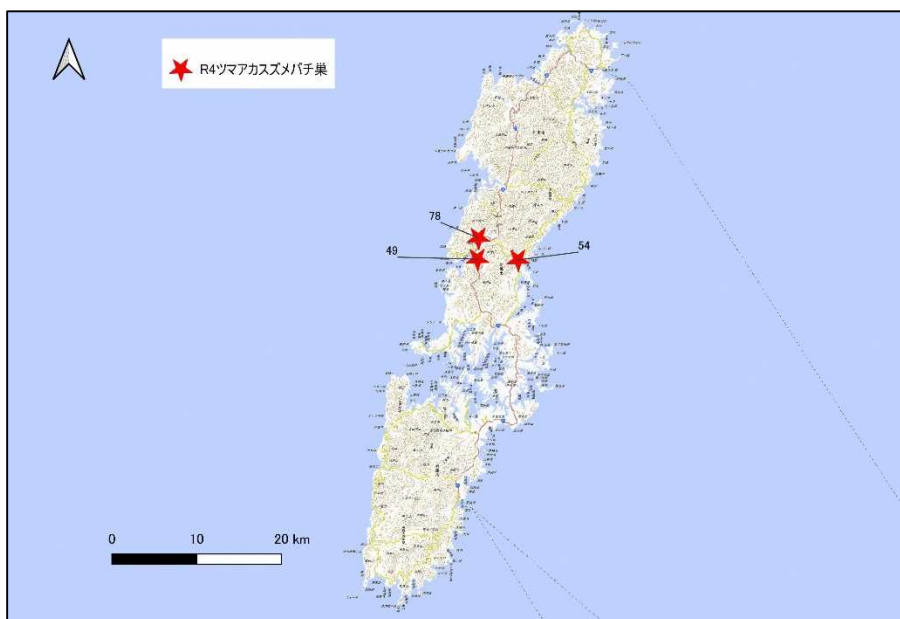


図4 実験対象エリア外で回収したツマアカスズメバチ巣